

Zoom 講演会「メキシコの街や建築の色彩のなぞ」

講師：千葉大学大学院工学研究科准教授 鈴木弘樹氏

講演内容記録

日時：2020年9月29日（火）19：00～20：30

場所：Zoom

参加者数：26人

記録者：千葉大学大学院 齊木詠吾

〔概要〕

JIA城東地域会としては初の試みである、リモートによる講演会が行われました。コロナウイルスの影響もあり、密を避けての開催でありましたが、大きな問題もなく、滞りなく行われました。講演会では千葉大学准教授の鈴木弘樹氏の実体験を踏まえつつ、メキシコのモンテレイ大学と共同で行われた5年間に及ぶ都市の色彩研究の内容紹介や、メキシコの歴史や文化、社会背景などから、実際の代表的な都市の紹介やメキシコを代表する建築家であるルイス・バラガンとリカルド・レゴレッタの作品紹介など幅広い話題に及びました。

〔講演内容〕

①メキシコの概要

メキシコの人口は日本とほぼ同じであるが、国土は5倍ほどあり、様々な気候帯が混在する国である。植民地時代の影響により主にスペイン語が用いられており、人口の構成は欧州系と先住民族の混血が6割を占める。宗教は国民の約9割がカトリック系である。年齢別に見てみると、若年層の割合が多く、今後の成長が見込まれる国である。

メキシコは大きく3つの地域に区別できる。北部にはかつては荒野が広がっていたが今は都市化し、中部ではメキシコシティなどの大都市が発展、南部にはマヤ文明等の文化が色濃く残っている。各都市には遺跡が多く残り、遺跡のすぐ隣に住宅地が広がっているのも特徴的である。イサマルでは庭の脇からピラミッドに登ることができ、日常に溶け込んだ遺跡の写真は驚くべき光景であった。保全の観点などからは不安な面もあるが、そのおおらかさもメキシコの特徴と言えるのではないか。

メキシコの自然と伝統文化 – 多様な気候的特色



②まちの色彩

歴史的に見てもメキシコは色彩が豊かであり、かつての壁画からも色の鮮やかさがうかがえた。また伝統的な赤の顔料には、サボテンにつく虫を潰したものをを用いている。それははじめて目にしたヨーロッパ人は大変驚いたと言われている。

街並みに使われる色や塗り方には国民性や社会背景などが影響しているという。メキシコでは個人や家族を大切にし、それぞれの家の境界を主張するように色が塗分けられている。また壁面の上部と下部、開口部の枠や扉など、細かい塗り分けを行うのが特徴である。しかし、まちによっては色の系統が定められており、イサマルは、バチカン市国の国旗の色を反映し、黄色で統一されている。また、意識しているライバル都市のメリダが白のまちなので、黄色にしたとの事である。カラフルなまちとしてのイメージが強かったが、メキシコ人の宗教意識の高さも垣間見ることが出来た。

メキシコ人のアイデンティティ：領域意識



③文化の融合ーコロニアル様式

スペインより、コロニアル様式が流入し、都市のグリッド化が図られ、道路整備やインテリアとエクステリアの構築がなされた。それとは対照的に、路地空間は建物や壁などが乱立し、入り組み、複雑になっている。都市に異文化が流入してもなお、メキシコ人のアイデンティティーがまちに現れているのがとても興味深く、国民性の強さを想像できるのと同時に異文化の融合のおもしろさを感じる。

④メキシコの都市ーグアナファト

メキシコシティから北西に 400 キロほど離れた位置にあるグアナファトは世界遺産に登録されているまちである。昨今では「死者の日」を題材にした、ディズニーの「リメンバーミー」という映画のモデルにもなっている。カラフルな建物のファサードが目を引き、都市としては地上と地下の 2 層に分かれた構成になっている。かつての銀山の坑道を地下道路として再利用しており、現在では自動車が行きかう。地上は歩行者優先道路になっているなど歩者分離の方法も面白い。まちの中にも教会や劇場など歴史的建造物が多く残り、現在も利用されているなど歴史と共存するまちである。鈴木氏の好きなまちの一つであり、紹介された夜景の写真はとても美しいものであった。



⑤ルイス・バラガン

バラガンの建築では、厳格なカラーコードを定めており、メキシコの風土を象徴するかのような8つの色（ピンク・赤錆・赤・黄色・黄土・青・白・薄紫）が用いられる。ランドスケープとの調和がなされるよう、緑は自然を取り入れている。代表作であるサン・クリストバルの厩舎でも、色鮮やかな水平ラインの上に現れる緑と空が一つの風景を構成している。講演会では写真集には掲載されないようなプールへの給水の為のポンプ棟の内部も紹介された。



メキシコのまちの色彩はファサードのみに見られるのに対し、バラガンの建築では内部にまで色を取り込んでいるのも特徴の一つであるという。ディテールに関しては少々荒い面も見られたが、建物内部への採光の仕方や、シークエンスの移り変わりは素晴らしく、見る人を退屈させることのないものである。



⑥リカルド・レゴレッタ

レゴレッタの事務所でもカラーコードが設けられており、アトリエ内には色が散りばめられている。執務室にはヴォールト上の天井がかかり、フロアは階段状になっている。壁面には大きな開口が設けられており、開口部のスクリーンを下ろすと柔らかい光と庭の木々のシルエットが映りこみ、魅力的な執務スペースを演出している。事務所内の家具や道具も魅力的なものも多く、オレンジの壁に太陽を模したような郵便受けの組み合わせなど、可愛らしく、郵便が届くたびに日に差す姿が目につく。



[記録者後記]

コロナ禍であり、外出自粛や海外旅行などが制限されるなか、多くの写真と共にメキシコの風土や魅力を紹介していただきました。メキシコという国に対して、漠然としたイメージしか持ち合わせていませんでしたが、講演中に紹介されたメキシコの風景や文化はどれも日本では考えられないようなものであり、コロナが終息した際にはぜひメキシコへ訪れて、実際に体感したいと思いました。訪れる際には、講演中に解説していただいた、まちの色彩の由縁や、都市の成り立ちなどを意識してみることで、日本のまちとの違いやメキシコのアイデンティティーをより深く感じる事ができると思います。

最後になりましたが、お忙しい中ご参加いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。